

～ 法面緑化と沖縄における植物の保全対策に関する調査研究～ 外来緑化植物アメリカハマグルマの逸出状況

(社)沖縄建設弘済会 技術環境研究所 坂下 光洋
武村 栄子

1、目的

沖縄県は島嶼県であり、独自の歴史を背景として、独特の自然環境を形成している。そのため貴重で保護すべき動植物も数多く分布しており、建設事業等における自然環境保全に対する県民の期待も高い。

1993年(平成5年)に「生物多様性条約」が発効し、国際的な取り組みが始まるのと同じころ、日本でも「生物多様性国家戦略」が策定され、自然環境保全は国としても国際的に取り組む課題となっている。

緑化の分野では、緑化の目標として「周辺環境との調和」が重要なテーマのひとつであるが、外来種(移入種)が在来の植物を駆逐するなど生態系を攪乱している問題について、対応が求められている。

2005年(平成17年)には「外来生物法」が施行され、外来種(移入種)による人間生活や生態系への悪影響をなくすことを目指した取り組みは、強化されてきている。

本研究では沖縄島における外来の緑化植物の逸出問題をテーマとし、今回は代表的な外来緑化植物である「アメリカハマグルマ」を取り上げ、その現状について報告を行い、今後の外来緑化植物の取扱いに対する参考資料としたい。

2、内容

平成17年から文献の収集にあたり、研究の方向性を特に「外来の緑化植物による生態系等への悪影響の状況」を調査することとし、平成18年度に「アメリカハマグルマ」の分布調査を行った。本年度は調査のとりまとめを行った。



図1 外来生物法
(環境省のホームページより)

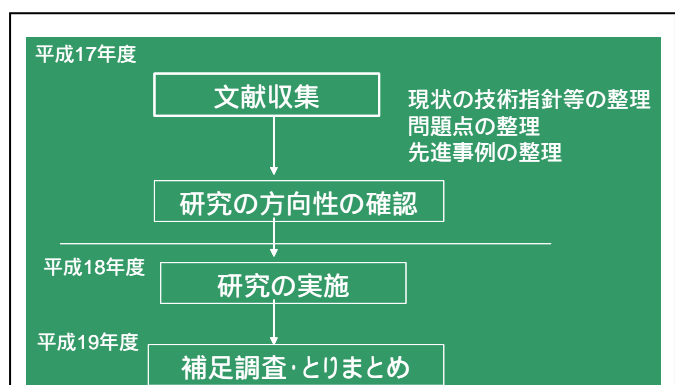


図2 本研究の経過

3、アメリカハマグルマについて



アメリカハマグルマ（別名：ウェデリア） キク科
茎は地上をはい、覆ってしまう蔓性植物。沖縄にはグランドカバー用に導入された。性質強健で、乾燥等の環境圧に耐える性質を活かして、道路法面の侵食防止の植生材料によい。（「沖縄・緑化樹木図鑑～道が拓く地域文化～」沖縄総合事務局開発建設部・監修）

国際自然保護連合の世界の外来入種ワースト 100 に含まれている。密な群落をつくり、地表面を覆うため、農園では農作物と競合し減収をもたらす。在来植生にも影響が大きい。（環境省 ホームページより）

環境省の「要注意外来生物」のリストにも含まれており、法に基づく規制を課せられるものではないものの、生態系等に悪影響を及ぼしうるとされ、その利用に際し適切な取扱いについて理解と協力が求められている。

「要注意外来生物」には、沖縄で利用されている緑化植物では、他にランタナや、オニウシノケグサ（ケンタッキー31、トールフェスク）、シナダレスズメガヤ（ウィーピングラブグラス）が含まれている。

4、結論

4.1 畑地への逸出確認



名護市 大浦の畑地周辺において、アメリカハマグルマが地表面を覆う状況を確認した。

畑地から道路路肩にまではい出してきていた。

周辺には緑化すべき法面などはないことから、どこから逸出してきたものかを推測することは、できなかった。

4.2 保護地域への逸出確認



沖縄の独特の自然景観として、サンゴ礁とマングローブ林があげられる。名護市大浦のマングローブ林は名護市の指定文化財（天然記念物）であるが、ここにもアメリカハマグルマが生育していた。

お花畑のような群落を形成しており、本来のマングローブ林の景観とは違和感があった。

4.3 山間地への逸出確認



沖縄の山地は原生的な自然の森が残されている貴重な地域である。

名護市辺野古には貴重な植物が生育する湿地があるが、ここにもアメリカハマグルマが生育していた。

狭い沢から広がる湿地に、一面を覆い尽くしている箇所を確認した。暗い林内にも生育できる性質を持つことから、林内にも群落が広がりつつある状況と思われた。

4.4 貴重種の分布地への逸出確認



名護市辺野古の湿地では実際に、貴重植物であるナツノウナギツカミ（沖縄県レッドデータブック：準絶滅危惧種）の分布地のすぐ近くに迫っており、貴重種の生育に対して悪影響を及ぼすことが懸念された。

4.5 沖縄島北部地域における分布確認

沖縄島北部の国頭村・大宜味村・東村は、特に原生的な自然の森がよく残されている地域である。その地域におけるアメリカハマグルマの分布（逸出）状況を調査するため、車両を使って大国林道と県道2号線（西側）を走査し、確認地点を地図上に示した。

その結果、山林の奥地と思われる今回の走査ルートにおいても、アメリカハマグルマの分布を確認した。

この地域は特に貴重な動植物がまとまって生息・生育している地域であるため、今後、本種による悪影響が懸念される。



5 . 今後の課題

アメリカハマグルマ（ウェデリア）の逸出が、畑地のみならず沖縄独自の景観地であるマングローブ林や、貴重植物の宝庫である沖縄島北部山地などでも確認された。

このことから、今後、本種に対しては非常に慎重な取扱いが望まれる。

また、このような種を今以上に増やさないよう、対応を検討する必要がある。